



令和2年（2020年）1月20日

まぶたを閉じれば



在りし日の

面影が浮かぶ

1995年（平成7年）1月17日5時46分頃、淡路島沖の明石海峡を震源として、マグニチュード7.3、最大震度7の兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）が発生した。当初発表では神戸市などは震度6であったが、その後の現地調査で震度7に修正され、1968年（昭和23年）の福井地震を契機として新設された「震度7」が適用された初めての地震となった。

震源に近い神戸市の市街地の被害は甚大であり、死者6,434人、行方不明者3人、負傷者43,792人、被災家屋約640,000棟は、戦後に発生した自然災害では、東日本大震災が発生するまでは最悪のものであった。

最大30万人以上が避難生活を送り、都市機能回復まで長期間を要した。また、山陽新幹線や阪神高速の高架橋が倒壊するなど交通インフラにも大きな被害を受けた。

一方で、全国からボランティアが被災地に駆けつけ、「ボランティア元年」とも称された。翌1996年（平成8年）からは、1月17日が「防災とボランティアの日」に制定され、この前後の1月15日から21日までの「防災とボランティア週間」とともに、ボランティア活動および自主的な防災活動普及のための講演会や展示会が全国で実施されている。

あれから丸25年、追悼行事が催される神戸・三宮の東遊園地では、竹灯籠などに揺らめくロウソクの火で「きざむ 1・17」がかたどられ、集まった遺族や被災者らは祈りをささげ、亡き人をしのんだそうです。（右の写真は、神戸新聞）



このとき、まだ生徒の皆さんは生まれていません。しかし、歴史に学ぶことで、これからの大災害に備えることができます。下の写真は、当時のものです。この光景を風化させてはいけません。



高速道路が横倒しに



高速道路が崩落し、バスがひっかって停車。乗員・乗客は全員無事脱出！「奇跡のバス」と呼ばれました。



ビルがぐしゃぐしゃに



大火災が発生、水が出ない



線路がぐにゃぐにゃに

3月11日には、東日本大震災から丸9年を迎えます。この地震では大津波が発生、原子力発電所も被災し、各地に甚大な被害が出ました。復興は未だ道半ばです。

「今私たちにできることは何か」、今一度考える機会にしましょう。